

■発効日 平成 23 年 1 月 30 日  
 ■発行者 議員 山崎 貞一  
 ■住 所 横芝光町台 107  
 ■T E L 0479-85-0606  
 ■F A X 0479-85-1050



# 山崎貞一の見聞録

新しい年を迎え、今年こそはと心新たにスタートして約一ヶ月が過ぎ、皆様はそれぞれの目標に向かって励んでいることと思います。

さて、四年前、合併して初めての横芝光町議会議員の選挙が行われました。立候補者

二十七人(議員定数十八)という大激戦の結果、皆様方のご支援をいただき当選させていただきました。

残された任期を頑張つてまいりますので、よろしく願い申し上げます。

横芝光町は、新町建設計画に基づく合併特例債事業も順調に推移しております。

合併特例債事業や住民要望に因應するための政策、東陽小学校体育館改築工事等(今後更に増えることも)、民主党政権公約による子ども手当や農家の個別所得補償制度など、予算規模も約百十一億円(一般的に町の規模から予測される予算は六十五億円―企画財政課発表)という大きなものになっております。

近年は、町長の権限はますます大きくなり、住民視点とかけ外れた行政展開が行われる可能性がります。そこで、議会の機能強化が最も重要になってくるわけです。

町長は職員を使用する独任制機関であり、議会は議員多数による合議制機関で、まさに「二元代表制」の下、それぞれの立場の違いは



ふれあひ橋から見た栗山川

あれ、「住民サービスと福祉向上」のため、まちづくりを施行する責務を負っております。

選挙において、「当選した町長を応援したのだから、与党の俺たちの方が有利に物事を運ぶのが当然だ」と一般的に考えられがちですが、これは権力に寄り添うという一方的な考え方です。

議会と町執行部の目標は同じであり、善政競争をしながらよりよいまちづくりをしなければなりません。「議会は町長を支援するためにあるのではなく、町民の皆様のためにある」のです。

そのことを町民の皆様の前に明確にお示しをすることが最も肝要であります。

今、全国の地方議会では議会改革が進んでおります。そこには、「議員の顔が見えない」「選挙で当選することが目的化されている」という指摘もあります。議員は当選した後、自分の掲げる公約実現のために全力で取り組み、そのことを町民の皆様に経過や結果をお知らせする責任があります。

議会活動は他に、議会がグループを組み各地域に向く、いわゆる「出前議会報告会」を行うことも一つの方法です。

これらのことはほんの一端ですが、他の市町議会に負けない活発な議会にならなければと思っております。

今後、更に努力を重ね、頑張つてまいりますので、お一人の、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。



## 「県道横芝停車場吉田線」いよいよ事業化

約三十年来の懸案でありました県道横芝停車場吉田線が、平成二十三年度から富下地先約七百メートル区間、用地取得に入る予定になりました。

これまで至るまでには紆余曲折ありましたが、関係機関職員、県議会議員・町議会議員をはじめ地域の皆様にご理解とご協力をいただき、大変ありがとうございました。小川台区・二又区の皆様は、出来る限り早く地元まで工事が進むことを期待しております。

役員の皆様、ご協力ありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

### 富下工区の道路改良計画 (三案提案され、地元同意された最終案)

【整備方法】南側に歩道を整備

【概算事業費】二億三千二百万円

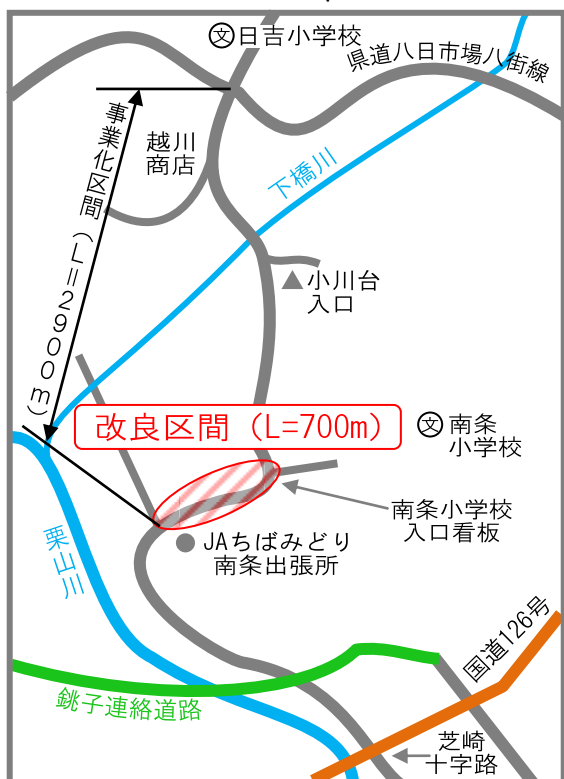
工事費：一億七千七百万円

用地費：九百万円

補償費：四千六百万円

#### 【利 点】

- 歩道が連続し、歩行者の導線が確保される。
- 南条小学校入口側に歩道が設置でき、安全性が確保できる。
- 地盤支持力が小さくても工事が可能。
- 供用開始後の沈下等の懸念が少ない。
- 現道の法面を利用するため、買収面積が少ない。
- 他(案)と比べて家屋の移転が少ない。



説明会開催月	内 容
平成 19 年 6 月	日吉・南条地区行政総務員合同会議
7 月	要望書署名運動
8 月	町に要望書提出
10 月	県へ陳情
12 月	山武地域整備センターへ要望書提出
平成 20 年 4 月	県道事業推進協議会設立
10 月	要望書の調査費決定
11 月	県道事業推進協議会に説明会開催
平成 21 年 4 月	設計予算決定
平成 22 年 2 月	富下区住民説明会：境界確認調査
7 月	富下区住民説明会：設計説明会、区要望提出
9 月	富下区住民説明会：県設計承諾、区要望確認
平成 23 年度	事業化：用地取得予算(案)

昨年「住民参加で協働のまちづくり」地区別懇談会で町長の協働による成果とは、具体的に、「光ファイバー網整備の署名活動」にみられるように、電話回線通信網ADSLの加入ができない世帯や光ファイバー網の整備されていない地域など、時代の要請に遅れていることが行政と町民の共通認識となり、よい結果が生まれたものです。

協働は、地域の実情や問題などを解決するため、町民と行政が連携して取り組むことです。

即ち、協働は「自助・共助・公助」が基本原則です。地域の課題を解決することや地域づくりの活性化を目指すためには、自助・共助・公助のネットワークが必要であります。行政に頼らず自らの力で出来るもの、地域の集合体により出来るもの、どうしても行政の力を借りなくては出来ないものなど、協働のまちづくりをご理解していただくことが大変重要です。

そのためには、昨年の四月一日から条例を施行した富里市のように、協働のまちづくり条例を策定するに当たり委員を公募により選定し、町民と行政の連携により条例を策定することです。

「協働のまちづくりとはどのようなことなのか、漠然としていて分からない」という方が多いようです。明文化して町民の一人おひとりに分り易くして、言葉の独り歩き解消を考えなくてはならないと思います。

【協働とは】

町民及び町が、共通の目的を実現するために、それぞれの役割と責任の下で、相互の立場を尊重し、対等な関係に立って協力すること



(篠本新井地区ほ場整理事業風景)

町長は「すべては町民のために」をテーマにしておりますが、昨今の横芝光町の財政状況や社会的経済状況を考えれば、行財政改革を唱えたり、事業仕分けという流行言葉を使ったりするよりも、自らの給料を削減し、姿勢を示すことが肝要であり、町民の皆様の信頼関係を構築することが、「町民のために」の第一歩ではないでしょうか。

東洋文化(儒教)では、一家の家長は家族のために、欲しいもの・食べたいもの・やりたいことなどを我慢し、身を粉にして頑張ります。これが東洋文化の伝統であり思想です。

横芝光町も一家と同じです。先に立つものが手本を示すことです。言動に心が入っていないければ説得力もなく、協働によるまちづくりはできません。そして、そのことが決断できなければリーダーの資格はないと思えますが、町民の皆様はどのようにお考えでしょうか。

近隣市町長現行給料比較

(単位:千円)

市町名	本給料	現行給料	減額率
旭市	774,000	774,000	0% →
香取市	800,000	800,000	0% →
匝瑳市	780,000	624,000	20% ↓
山武市	800,000	800,000	0% →
富里市	830,000	747,000	10% ↓
東金市	850,000	850,000	0% →
成田市	930,000	883,500	5% ↓
大網白里町	820,000	738,000	10% ↓
九十九里町	782,000	625,600	20% ↓
芝山町	749,000	749,000	0% →
多古町	785,000	785,000	0% →
横芝光町	760,000	760,000	0% →

平成22年12月10日現在

～ひかりの風～ 町民の声

【地に足をつけて正しく生きる】

光地域在住女性

今こそ未来のある子供たちに夢をもって幸せに生きる人生を私たち大人が見せていかなければいけないのではないのでしょうか。では、幸せな生き方とはどんな生き方でしょうか。私は、こう考えます。

「夫婦が仲よくすることです。」

父親は、子の母である妻を大切にしている。例えば、お茶一杯を入れてもらっても「ありがとう」という感謝の言葉を口に出して言う。

生活の中で大人が当たり前に行っていることが、自然に子の「しつけ」となる。かつ「悪い姿も含めて、一生懸命に生きている姿を見せる。どんなに世の中が変わろうとも生きていく基本を教えるのは父親の姿です。

母親もまた、子の父である夫を一家の中心に置いて生活し、大切なことは相談しながら生活する姿を、たとえ共働きであろうとも、夫の働きに「お疲れ様でした」と言う労いの言葉をかける姿を見せる。

そして、人生の先輩であるおじいちゃんやおばあちゃんも少しでも多くふれあう機会を作る。

そんな当たり前のことを心と身体に身につけて巣立った子どもたちは、どんな時代でも、どんな環境でも人を信じて夢を持って生きていけると思えます。

そしてまた、自分の生きてきた経験をもとに新たな家庭を作り、子に伝え、姿で見せていくことができるようになると思います。

今こそ、今だからこそ私たちが大人が地に足をつけて、正しい方向に向かって生きる姿を見せていきましょう。

知人からの手紙

今朝は、お忙しい中、朝起会に参加いただき有難うございました。

誠に恐れ入りますが、今朝、お話しした内容の要旨を以下の通りご連絡させていただきます。

【先師「希望と人生」より】

動物で人類だけが「我」を持ち、わがままである。わがままを取り除けば、除くだけ幸せになり、人の能力を発揮できる。

そのわがままを切り離す訓練が倫理の実践であります。

もともと釈迦やキリストも倫理を説いていました。彼らの死後、人の不安、欲望が釈迦を仏にし、イエスを救世主にし、今日の宗教になりました。

【以前、読んだ本(自然学者・竹内均)】

あらゆる宗教、開祖の教義のもとを集約すると、勤勉・正直・感謝になるということです。

【国が衰退し滅びる要因】

- 一 国民が自分中心の欲ばかりになったとき。
- 二 悪平等になり区別も差別も分からなくなるとき。
- 三 行きすぎたレジャーにうつつをぬかすとき。
- 四 政治家が国民にこびるようになったとき。

かつてのローマやギリシャ、平家も内部(四つの要因)から崩壊した。

現代は、これに近い状態になっているのではないかと。

— 追伸 —

光町はよい所ですね。時々遊びに行きます。今後ともよろしく願います。

